

生成AIの利用 ④ 一国のガイドラインから

活用が考えられる例

- ① 情報モラル教育の一環として、教師が生成AIが生成する誤りを含む回答を教材として使用し、その性質や限界等を生徒に気付かせること。
- ② 生成AIをめぐる社会的論議について生徒自身が主体的に考え、議論する過程で、その素材として活用させること。
- ③ グループの考えをまとめたり、アイデアを出したりする活動の途中段階で、生徒同士で一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見付け議論を深める目的で活用させること。
- ④ 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用させたりすること、外国人児童・生徒等の日本語学習のために活用させること。
- ⑤ 生成AIの活用方法を学ぶ目的で、自ら作った文章を生成AIに修正させたものを「たたき台」として、自分なりに何度も推敲して、より良い文章として修正した過程・結果をワープロソフトの校閲機能を使って提出させること。
- ⑥ 発展的な学習として、生成AIを用いた高度なプログラミングを行わせること。
- ⑦ 生成AIを活用した問題発見・課題解決能力を積極的に評価する観点からパフォーマンステストを行うこと。



※ あくまでも例示であり、個別具体的に照らして判断する必要があります。